

解体方針の宝塚ホテル本館(右)。  
シンポ後に見学会が行われた＝宝  
塚市梅野町



関西有数のクラシックホテルとして知られる宝塚ホテル(宝塚市)の建て替え移転方針を受け、市民による「宝塚のまち並みと文化的資産を守る会」が発足した。このほど同ホテルで開催した第1回シンポジウムでは、建築史家の笠原一人・京都工芸繊維大助教・神戸市灘区Ⅱらが、同ホテル本館の保存活用を標る必要を訴えた。

宝塚ホテル本館は1926(大正15)年完成。西宮に事務所を構えた古塚正治(1892～1976年)の設計で、鉄筋コンクリート造り地上4階、地下1階建て。阪急阪神ホールディングス傘下の阪急阪神ホテルズの経営で、昨年5月、老朽化や耐震化の必要から解体移転を発表した。

## 古塚正治設計 宝塚ホテル

## 「守る会」がシンポ 本館の保存活用訴え

「耐震やリノベーションは技術的に可能。費用の問題はあるが、経営者の考えが大事」と等原助教。移転後は住宅開発を検討されているが、宝塚市の都市景観形成建築物、兵庫県景観形成重要建築物でもあり、行政と連携した保存活用を期待を示した。守る会の酒井真弓代表は「宝塚らしい建物や施設が消えると、まちの魅力も失われていかないか。市民の関心を広げたい」としている。

ルネサンス風をベースに、19世紀のフランス的なマンサード屋根、最先端のセセッション様式の影響を感じさせる曲線的な装飾などに混交したデザインの華やかな魅力を笠原助教は解説。切り妻破風の植物のレリーフ、高砂産の黄色い葦山石を使ったバルコニーの半円形アーチなどの見どころを紹介した。

阪急と地元の事業家平塚嘉右衛門との共同出資で建てられた地域遺産としての意義にも言及。増築のため玄関の外観の一部が失われているが、「大部分は残されており、解体すれば宝塚の1920年代の歴史と文化を象徴する建物がなくなる」と強調した。

(田中真治)

# 貴重な地域の建造物を次代に



改修工事のため閉鎖された  
御影公会堂＝神戸市東灘区  
御影石町4

## 建築史家らセミナー 歴史踏まえた改修を

ランドマークとして親しまれてきた神戸市立御影公会堂(同市東灘区)が4月から1年間の改修工事に入った。休館前の3月30日、日本建築家協会兵庫地域会とNPO法人ひょうごハリーテージ機構神戸がセミナーを開催。建築史家の川島智生・京都華頂大教授・神戸市東灘区Ⅱらが、建築的価値と歴史を踏まえた改修になるよう意見を述べた。

1933(昭和8)年完成の建物は、旧御影町の公会堂として、神戸

## 清水栄二設計 御影公会堂

年、現甲南漬資料館)で育った高嶋良平・高嶋酒類食品会長も、公会堂の保存を要望してきた地元動きを紹介。インテリアの改装についても町章のある2階席などには配慮を求めた。

公会堂食堂の3代目鈴木真紀子さんは、震災や震災を乗り越えてきた建物とともに、祖父の代から味を守ってきたと語り、「ここはパワースポットだ」と思っている。再開を応援してほしいとした。(田中真治)

市役所初代宮崎課長だった清水栄二(1895～1964年)が設計。鉄筋コンクリート造り地上3階、地下1階建てで、階段状のバラベットの(手すり壁)など表現的な特徴や清水の仕事の意義を、川島教授が講演した。

27年に阪神国道(国道2号)ができた御影の近代的景観との関係も、北尾謙之助の紀行文「阪神風景漫歩」を引用して考察。自動車やバス、電車が引き交うスピード感を賞賛する描写から、「画期的な道路にふさわしい、新しい建築の試みができる場所だった」との見方を示し、「ポエジーな景色を受け継がれる改修に」と訴えた。

清水が設計した御影の高嶋邸(31